

千々石地域審議会 提言書

平成21年8月19日

はじめに

雲仙市が誕生して、4年が過ぎようとしておりますが、雲仙市総合計画に掲げられております市の将来像と施策に基づき、雲仙市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち千々石地域審議会委員15人は、平成19年7月に市長から委嘱を受け、第2期千々石地域審議会として活動を開始しました。市の総合計画や地域振興計画、委員としての所管事務等について研修し、その責任を深く認識する中で、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる。」を根拠として、市内全地域が等しく発展することを目指して、地域の課題を探り、提言書としてまとめ、市長に提言することを決定しました。

以来、定例会議を7回と臨時会議を3回開催し、様々な地域課題の一つひとつを市民の目線でしっかりと見つめ、現状と課題やその解決策について審議を重ね、このほど提言書としてまとめることができました。

本来、審議会としての提言は、中長期的な視点に立ってまとめるべきであると考えますが、現状を少しでも早く改善する必要がある事業、また、新規に実施していただきたい事業等があり、ここに本審議会として提言いたします。

平成21年8月19日

雲仙市長 奥村 慎太郎 様

千々石地域審議会会長 中山寛二

目 次

ページ

1．産業の振興について

(1) 農業の振興について

() 「千々石の米」のブランド化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

() 環境保全型農業の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

() 休耕地解消対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(2) 商工業の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(3) 漁業の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(4) 林業の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2．参加・協力が可能な「まちづくり」活動について

(1) イベント開催による地域の活性化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3．合併後の市政、全市にかかわる提言について

(1) 道路整備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(2) 公共交通について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

千々石地域審議会提言書

1. 産業の振興について

(1) 農業の振興について

() 「千々石の米」のブランド化

現状と課題

本地域では、以前から良質で豊富な水を活用した米作が盛んに行われ、「千々石の米はおいしい」との評価を貰っている。また、平成20年度、本地域の岳地区において「全国棚田サミット」が開催されたことにより、千々石の米の知名度が更にアップしたものと考えられる。しかし、現状では「千々石の米」は、他地域の米と差別化された販売はほとんどなされていない。理由としては、「千々石の米」としてブランド化した販売をしていないため、消費者への認知度の不足が上げられる。

解決策

本地域の農業振興を図るために、市として次の事業を行い、支援する。
岳地区の棚田米を含む本地域で生産される全ての米を「千々石の米」と命名し、ブランド米として他地域の米との差別化を図る。
「千々石の米」をブランド化するための受け皿的な団体を有志で組織し、販売戦略を企画する。
特産品パンフレットやマスコミ等により「千々石の米」のPRを行い、知名度アップに努め、ブランド米としての有利販売、販路拡大に繋げる。

() 環境保全型農業の振興

現状と課題

市として環境保全型農業を推進しているが、本地域の農業においては、有機栽培作物の種類は確実に増えてきているものの、ほとんどの農家においてこれまでと同じように化学肥料や農薬を多用する農法が続けられている。

そこで、環境保全、食の安全、自給率の問題等に関心が集まっている今日、環境への負荷を少なくし、また、農業の活性化に繋がる環境保全型農業への転換を図りつつ、消費者のニーズに沿った食の安心安全に結びついた生産活動に取り組む必要がある。

解決策

本地域としては、減農薬・無農薬循環型農業による農業振興を目指し、耕作放棄地等を活用し、市として次の事業を行い、支援する。また、事業実施後の結果次第では、事業内容を適宜一般に紹介し、PRに努める。

無農薬循環型農業に関心のある人の募集と自然野菜の会（仮称）の設立、市有機農業ネットワークの活用、無農薬循環型農業に適した土壌への転換と作物の研究、栽培等の推進

（根菜類、果菜類、葉菜類、豆類ほか、アスパラ、バナナアケビなど）

無農薬循環型農業の情報収集、栽培方法の調査研究、先進地視察等の実施

（先進地への研修生派遣、技術の習得）

無農薬循環型農業による農産物の販路確保

（学校給食、農協、直販所、グリーンコープ等への協力依頼）

環境保全型農業を推進するための完熟堆肥の確保、供給

（完熟堆肥を使用することが重要）

() 休耕地解消対策

現状と課題

本地域では、高齢化と後継者不足等で農業従事者が今後20年間で約半数に減少することが推定され、それに伴い休耕地も年々増加していくことが予測される。

解決策

本地域の農業振興を図ることを目的に、地権者の協力の下に休耕地解消対策として、市として次の事業を行い、支援する。

休耕地を農地として活用することが最適であることから、農業体験できる農地への転換や、シルバー人材による農業指導と農地管理等を支援する。

Uターン者、新規就農者、若手後継者、女性就農者へ農業体験できる農地として休耕地を貸し出し、支援する。

休耕地を小・中学校の農業体験できる実習農園として活用する。

(水稲や野菜等の苗の植え付けから収穫までの栽培管理を体験させることで農業の大切さ、楽しさを知らせる。)

休耕地を畜産業者に貸し出し、飼料用作物の栽培農地として活用する。

(2) 商工業の振興について

現状と課題

本地域の商工業者は、企業の低迷や大型店舗等の進出、更に不景気の波に押され、経営が悪化するなど多大な影響を受けている。また、商工業従事者の高齢化、後継者不足が著しく、ますます活気がなくなっている。

解決策

本地域の商店街の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

本地域の各商店が取り扱っている物品等の調査を市商工会を通じて実施すると共に、その調査結果を取りまとめ、企業や各世帯へ周知し、地域内消費の拡大を図る。

本地域の水資源を活用する企業の誘致を強力に推進し、雇用の場を創出すると共に人口増加、地域内消費に繋げ、住みやすい街づくりを目指す。

隠れた才能、技術、人材の発掘及び、優れた技術者のいる地域商店のブランド化を進める。

特産品の開発を進め、ネット販売等の販路拡大を図る。

地域商店の活性化を図るために全市的にアイデアを募集する。

地域商店のショッピングモール計画(市主導による対策本部の設置)

(3) 漁業の振興について

現状と課題

本地域の水産業を取り巻く状況は、水産資源や漁獲量の減少、漁場環境の変化、漁業従事者の減少や高齢化、後継者不足、景気低迷による需要の減少、燃油価格の高騰等により、漁業経営は圧迫され、厳しい状況が続いている。

解決策

本地域の漁業の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

水産資源の維持のため稚貝・稚魚の放流や後継者不足に対応するためアラ・クエなど高級魚の試験養殖を推進し、経営基盤の安定を図る。

本地域で水揚げされる鮮魚等を使って加工品の商品開発を行い、特産品としての販路確立を目指す。

本地域で水揚げされた水産物の地産地消を目的に、雑魚やかまぼこ等水産加工物の直接販売を推進する。

(4) 林業の振興について

現状と課題

本地域は市内でも林業が盛んな地域であり、国産材木として使用できる木材が沢山生産されている。しかし、近年、国産材木の価格の暴落や後継者不足等で山林の管理が行き届かず、林業は低迷している。そのような中、低廉な外国産材木を使用した住宅建築が増加傾向にあり、国産材木の需要を伸ばすことが課題である。

解決策

本地域の林業の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

低廉な外国産材木に対抗して、上質な市内産材木のPRに力を入れ、有効活用を図る。

上質な市内産材木の生産、管理の徹底を目的とした助成制度を創設し、林業従事者や後継者育成に繋げる。

上質な市内産材木を使用した住宅建築の推進、優遇措置の実施（住宅ローン利息軽減等）

2. 参加・協力が可能な「まちづくり」活動について

(1) イベント開催による地域の活性化

現状と課題

本地域では、これまで開催されてきた各種イベント等が開催されなくなり、地域の活気が薄れてきている。また、本地域の湧水等の自然を観光資源として捉え、まち歩きをしながら触れていただきたいと民間団体が散策マップを作成する等、湧水への関心が高くなってきている状況である。しかし、湧水源地や河川等は雑草が生い茂り、清掃等も行き届いておらず、余り綺麗とは言えない。しかも湧水を見学するにも、駐車場が整備されておらず、観光客等の期待を裏切る可能性がある。

解決策

本地域の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

地域住民と行政との協働により、千々石夜市等各種イベントを開催し、地元商品や地域の特産品等のPRや即売を行う。

地域住民総参加による湧水の森公園や湧水源地、河川の清掃を行い、環境美化に努める。

地域住民や観光客を対象に湧水マップを活用した「湧水見学ツアー」等を実施し、環境保全や水の大切さ等を知らせると共に、観光客の誘客に繋げる。

3. 合併後の市政、全市にかかわる提言について

(1) 道路整備について

現状と課題

本地域を横断する国道57号は、信号機が近距離で設置されていることや市民の生活道路でもあることから、朝夕の通勤時間帯はもとより平常時でも渋滞が発生している。小浜地域でイベント等が開催される時は、更に大変な渋滞となっている。

解決策

本地域の交通渋滞緩和策として、市として次の事業を行い、支援する。

市道千々石日向平線を、小浜方面は市道木場山領線に繋ぎ、愛野方面は千々石展望台付近の主要地方道愛野島原線（通称；開拓道路）に繋げることにより、国道57号のバイパス化を図る。

上記 実施後、将来的には雲仙北部地区、或いは、雲仙小浜・南串山地域に整備されている広域農道（グリーンロード）と同等の道路として整備する。市道高野金屋線及び市道金屋線の改良拡幅工事を行うと共に市道漁港線に繋ぎ、市道塩浜線の改良拡幅工事を行い、市道龍下線に繋ぎ、国道57号の第二国道として整備する。

(2) 公共交通について

現状と課題

本地域から長崎市までは、県営バス撤退前は公共交通機関を利用して、乗り換えることなく行くことができたが、撤退後は乗換え等が必要になった。また、日常、高校生やサラリーマン等の近隣市や市内（愛野から国見方面）への通学・通勤時においても乗換え等が必要になり、かなりの時間を要するようになった。公共交通機関の利便性向上が課題である。

解決策

本地域の公共交通機関の利便性向上策として、市として次の事業を行い、支援する。

全市民に公共交通機関の利用を促進させると共に、事業者に各路線の増便と乗換えなしの路線の新設を促す。

高齢者や障がい者、子どもたち等の交通弱者と言われる人たちが、病院や学校、郵便局、銀行、農協、スーパー等を経由し、バス停までを低廉な運賃で利用できるジャンボタクシーや小型バスを使った乗合タクシーを運行する。